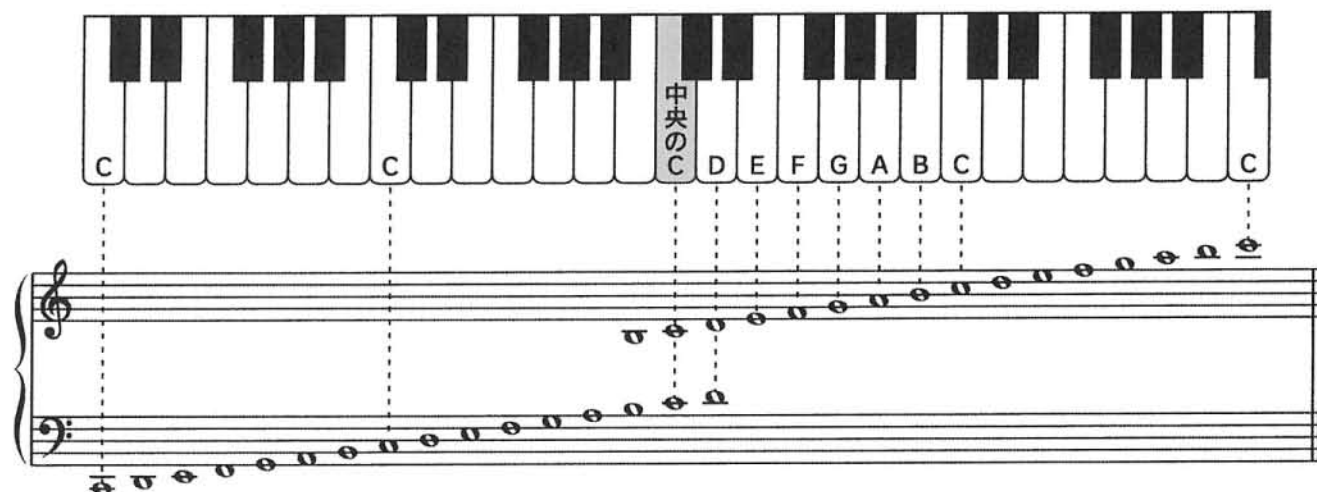


はじめに

古くから伝わってきた沖縄の民謡から、現代的な沖縄ポップまで、ピアノで楽しみましょう。ピアノ演奏だけでなく、歌いながら伴奏も出来るように工夫しました。本書はもちろん、アコースティック・ピアノだけでなく、電子ピアノでも演奏出来ます。

【鍵盤と楽譜の関係は！】

ピアノの前に座ってみましょう。左側が鍵盤の低音部で、右側は高音部です。グレーの鍵盤が軸になる中央のドです。



【この本の活用法】

本書は、何通りかの活用法が出来るよう工夫してみました。ひとつずつ紹介しましょう。

【タイプA】

ピアノ演奏します。ピアノソロです。基本的に上段がメロディパートで下段が伴奏パターン(ベースコード)です。所々上段に伴奏が、下段にメロディーが配置されます。歌詞は、ここが歌メロなんだな、という目安になりますね。

Diagram illustrating the notation for Type A piano playing, showing a melody line and a bass line with chords.

The notation shows a melody line (upper staff) and a bass line (lower staff) with chords. The chords are labeled: Bm7/A, F#m7/A, Bm7/A, F#m7/A. The melody line includes the lyrics: は ば - た き を わ す れ. The bass line includes the lyrics: は ば - た き を わ す れ. The notation also includes a section labeled "ピアノでメロディ" (Piano melody) and "ピアノで伴奏" (Piano accompaniment).

【タイプB】

歌とピアノの両方を楽しむことも出来ます。その為に歌詞を付けてあります。上段が歌メロ、下段は伴奏です。上段に歌メロの間をぬってピアノフレーズが入ることもあります。前奏・間奏・後奏はそのまま演奏してください。弾き語りOK。二人で、歌メロとピアノ伴奏に分けて楽しむことも出来ます。

【タイプC】

どうも楽譜を読むのが苦手という方のために、又はピアノ2名で合奏も出来るように、一目でわかるコードダイアグラムとリズム・パターンを表記しました。必ずしもこの通りというわけではありませんので、自分流に工夫してみてください。

右手＝コード音。コードダイアグラムは左手でベース音、右手でコード音をそれぞれ担当して弾くように、伴奏パターンを作りました。

左手＝ベース音。左手は初心者向けに単音で弾きます。例えばC7はC音、GmはG音というように、コードのルート音を。Am7/Dのような場合ベースはD音を使用します。左手ベース音のダイアグラムは1オクターブ下(左側)の鍵盤を弾きます。

右手コード音
ダイアグラム

左手ベース音
ダイアグラム

このコード進行で練習してみましょう！

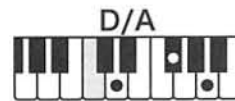
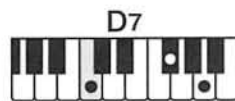
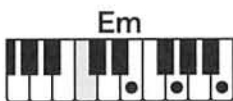
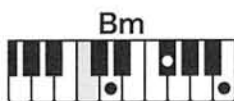
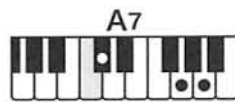
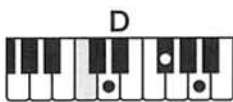
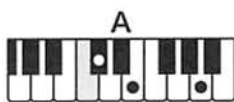
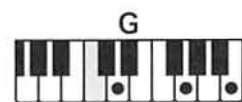
芭蕉布

CD Track No. 1

伴奏リズム



詞 吉川安一／曲 普久原恒勇／歌 普天間かおり



【ワンポイント】

芭蕉布とは、沖縄で自生する糸芭蕉からとられた糸で織った布のことです。前奏だけでなく歌メロにはいってからも、1拍を3等分した3連リズムを感じながら演奏しましょう。ピアノのメロディは心の中で一緒に歌うようにして弾くと感じが出やすくなります。

【楽譜の進む順】

前奏→A→B→C→間奏1→A→B→C→間奏2→A→B→C→→後奏

オリジナルキー：D／プレイキー：D

♩=92~100 ♩=♩³



前奏



A

う み の
し り の
い ま は
あ こ お
む じょ
さ う し
に の の